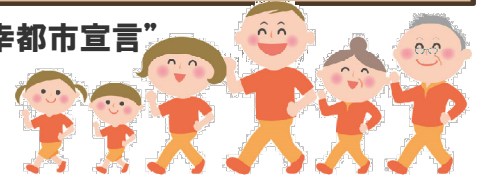


和地ひとみレポート No.337

来年の市制50周年記念式典で発表“子ども・子育て憲章”と“健幸都市宣言”
制定を目的とせず、活きたものとする工夫も



■市議会全員協議会で説明

…12月3日の市議会定例会本会議後に開催された市議会全員協議会では下記の3つの案件について市から説明がありました。

◇東大和市健幸都市宣言について

◇東大和市子ども・子育て憲章について

◇東大和市子ども・子育て未来プランについて
(第2期東大和市子ども・子育て支援事業計画、第1期新・放課後子ども総合プランに基づく東大和市行動計画、第1期東大和市次世代育成支援行動計画、第1期東大和市子ども・若者計画、第1期東大和市子どもの貧困対策計画を一体的に策定する計画。計画期間は令和2年度から5年間。)

…「東大和市健幸都市宣言」と「東大和市子ども・子育て憲章」は、来年の市制50周年記念式典で発表することを目指したもので、その素案が完成したことを受けての説明でした。また、これらは市議会による議決案件ではありませんが、市はこの宣言と憲章を重要と考えているため、市議会にも理解を求めたいということから、来年の第1回市議会定例会(≒3月定例会)で議案として上程するとのことです。

…今回、全員協議会で説明された3件について、市は現在、市民からの意見を集めるパブリックコメントを実施しています。

(受付期間：12月4日から来年の1月6日)

(内容は市のホームページや市役所の各担当課窓口、公民館などで閲覧できます。)

■東大和市健幸都市宣言とは

…市は平成27年度から平成32年度(=令和2年)までの6か年を計画期間とする「東大和市健康増進計画」を平成27年3月に策定し、様々な健康増進施策に取り組んできました。そして、この計画の基本理念「生涯にわたって健康でいきいきと豊かな人生をおくることができるまち」を前提として、更なる健康寿命の延伸を図るため、「健康」と「幸せ」は、すべての人の願いであるとの考えから、「健幸=健康で幸せ」を意味した造語を用いた「健幸都市」の実現に向け、市の取組を推進していくことに。そして、「健幸都市の実現に向けた東大和市健康寿命延伸取組方針」を平成31年3月に策定しています。

…そのうえでさらに「健幸都市宣言」をする理由について、市の説明では『「健幸都市」は、個人による健康づくりと社会的な支えが結びついて、はじめて実現することから、個人が自助努力をしやすい環境を整えるとともに、市だけではなく、市民、企業、団体などの様々な関係者が協力して健康寿命の延伸に取り組んでいく契機とするため、令和2年度の市制50周年の

記念すべき節目の年に合わせ、市内外に広く宣言したいと考えている。」とのことでした。

【東大和市健幸都市宣言(素案)】

東大和市は、多摩湖のほとり、自然と文化に恵まれたまちです。

平和な世の中で、だれもが自分らしく、豊かな人生をいきいきと過ごすことがわたしたちの願いです。

一人ひとりが協力して、限りある命を大切に、健康で幸せに暮らせるまちを目指して、ここに東大和市を「健幸都市」とすることを宣言します。

- ・楽しく運動を続け、身体のしなやかさやたくましさ機能を保ちます。
- ・おいしく食べて、良好な身体を保つ食生活を実践します。
- ・社会活動に参加し、世代をこえて人とふれあい、楽しく交流します。
- ・健康状態を確認するため、すすんで健診を受けます。
- ・ともに協力して、笑顔を大切に、喜びを感じながら生活します。

…この素案作成については、今年の4月から10月にかけて市の福祉部のポリシー・ディスカッション・グループで検討を6回行い、原案を作成。その後、庁内にて意見の聴取を行ったのち、市制50周年記念事業と東京2020オリ・パラに向けた取り組み推進本部会議と推進部会にて検討。そして、健康づくり推進会議で意見を聴き取って素案が出来上がったとのことでした。

■他の自治体は？

…この「健幸」という造語については、東大和市だけが使用しているのでしょうか。実は、全国の多くの自治体が「健幸都市宣言」をしており、それら自治体の首長(≒市長)有志が発起人となり、日本健康会議や先進的な取組を行っている関係団体、関係省庁協力のもと「日本健幸都市連合」まで発足しています。

…この「日本健幸都市連合」には現在、全国95自治体が加盟。近隣では小平市、多摩市、日野市、埼玉県所沢市なども加盟自治体(≒健幸都市宣言をしている自治体)となっています。

今回の全員協議会では、来年の「東大和市健幸都市宣言」後、この連合に加盟するののかという質問もありましたが、現在、市ではこの団体への加盟については考えておらず、今後、検討したいとのことでした。

(裏面に続く)

■子ども・子育て憲章とは

…実は、子ども憲章について、私は昨年9月の市議会定例会での一般質問で取り上げています。東大和市は、尾崎市長を先頭に日本一子育てしやすいまちを目指し、今までもさまざまな施策に取り組んできています。その甲斐もあり、日経デュアルが実施した子育て支援制度に関する調査において、共働き子育てしやすいまちの総合3位となるなど、外部からの評価も得られました。しかし一方で、子育てしやすいまちは行政サービスの充実だけで実現するものではなく、市民全員でつくり上げるものだと思いますが、日本一子育てしやすいまちについて行政と市民が共通して目指すビジョンや方針などはない状況でした。

…子育て支援施策に力を入れている自治体では、子ども憲章や条例などを制定しているところが多くみられる中、それらを制定していない東大和市の考えをこの時の一般質問で確認をしたところ、その答弁では「市制50周年の節目に憲章を制定したい」との意向が示され、今回の素案の公表となりました。

…公表された「東大和市子ども・子育て憲章」は正式には「東大和市 子どもと大人のやくそく（東大和市子ども・子育て憲章）」とされており、この制定の目的などについての市の説明は「市の未来を担う子どもたちの健やかな成長を守り育むとともに、子どもたち自身が社会の一員として生きていける力を育めるよう、市民の皆様、地域関係者・事業者の方々及び市が相互に協力し、取り組んでいくための子ども・子育てに関する『共通の理念、指針』となるものとして、市制50周年の記念すべき節目の年に合わせて、制定したい。」とのことでした。

…この素案の作成は市内の小中学校の児童・生徒31人も参加した「子ども・子育て憲章検討部会（子ども大人会議）」で検討されました。

その後、その会議で出た「やくそくする項目」について、環境市民の集い、児童館、学童保育所、狭山保育園、やまとあけぼの学園、子ども家庭支援センターでアンケートを実施。そして、教育委員、民生・児童委員、青少年対策地区化委員会で意見を聴取し、素案が完成したとのことです。

…全員協議会では「もっとやさしくて、分かりやすい言葉にした方が良い」など、子ども達が積極的に意見を出し合って作り上げた様子も披露されましたが、一部の議員からは「子ども達にやくそくをさせるというのは、大人からの押し付け的な印象がある」との意見も出ました。

■活きたものにするために

…東大和市だけではなく、多くの自治体が様々な「宣言」や「憲章」を制定しています。東大和市でもこれまで「東大和市民宣言」「東大和高齢者憲章」という2つの憲章と、「東大和市民宣言」「東大和市交通安全都市宣言」「東大和市男女共同参画都市宣言」という3つの宣言を制定しています。

…宣言と憲章は両方とも「都市のシンボル、基本的な計画の理念的基盤」とされていますが、相違点は「宣言は対象を市民だけではなく、広域、他の自治体等も意識したもので、憲章は「制定趣旨の継続性、後から続く運動を喚起し、理念を数カ条で表現し、努力目標が多面的に示させるもの」であることです。

…今後、「健幸都市宣言」を受けて市では、健康寿命延伸のためのアクションプランを策定するとのこと。一方で「子ども・子育て憲章」については、今回、説明のあった「子ども・子育て未来プラン」の上位に位置することは示されましたが、この子どもたちが考えた憲章をどのように広め定着させていくのかについては具体的には示されませんでした。私からは学校とも連携し、活きたものにしてほしいと要望しました。

【東大和市 子どもと大人のやくそく(東大和市 子ども・子育て憲章)(素案)】

(前文)

豊かな自然に恵まれた東大和に住む すべての人が 未来に夢や希望を持ち 命や人とのかかわりを大切に 明るく元気よく生きていくために 子どもと大人がお互いに約束しあいます。

わたしたち 子どもは

進んで元気よくあいさつをします

よく遊び よく学び 規則正しい生活をします

約束やルールをしっかり守ります

一人ひとりの個性を大切に 思いやりを持って行動します

いじめはしません させません

困ったときは すぐに相談します

ごみのないきれいな東大和にします

わたしたち 大人は

子どもの心に寄り添い 健やかな成長を見守ります

子どもの様々な個性や考え方を認め可能性を引き出します

子どもから信頼されるよう 誠実に生きる姿を見せます

大人としての自覚と責任を持ち ダメなことをダメと言える勇気を持ちます

子どもの心や体を傷つけることはしません

気付いたときは すぐに手を差し伸べます

ふるさとの豊かな自然を守り 歴史や文化を伝えます

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。/「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。/『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在3期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木 3-274-2-102